

安心とするおの町川の手をめぐりて

防災 まちづくり版

発行の寺言問を防災のまちにする会

昭和63年9月1日

路地尊・旧墨堤之道・地蔵坂通り...

計画の実現へ 活動活発化

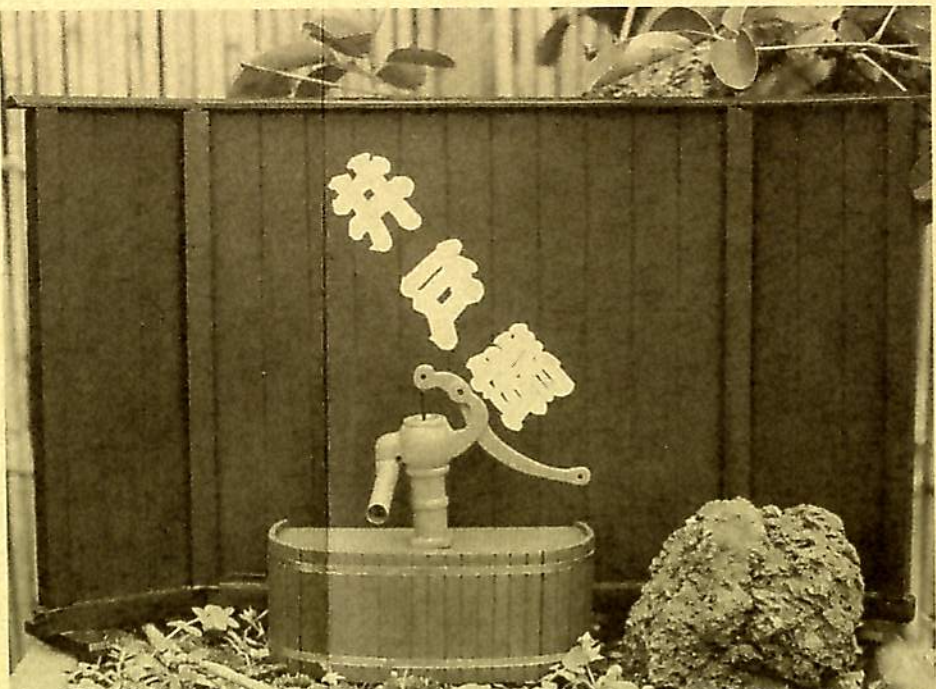
計画の実現に向けて、各地で活発なまちづくり活動がおこなわれています。

旧墨堤之道は、いよいよ設計に向けた議論の段階にはいりました。先日の沿道住民会議では、植物調査の報告などがおこなわれ、具体的にサクラなどをどうするかという議論がなされました。

地蔵坂通りでは、商店会と一言会の間で話し合いがおこなわれ、一言会は商店会に対して「安心して歩けるように商店会でも検討して欲しい」と申し入れをしました。これを受けて、近く商店会では防災に関するキャンペーンを張るそうです。

路地尊は、各地で「今度は私たちのところに」という誘致宣言の声もあり、現在適地を選んでいるところだ。

その他、地域防災活動拠点会議づくりの議論も始まりました。細かな話になればなるほど、様々な問題がでてきますが、根拠強くまちづくり活動をすすめていきたいと存じます。



路地尊の新製品!? (模型製作/徳永暢男氏)

実施

旧墨堤之道

墨堤の名残りの道を歩きやすくする計画

旧墨堤之道の整備については、これまで一言会と沿道の人たちの間で協議してきましたが、今年の二月に整備に向けた合意がまとまり、たこのことを受け、さる七月十四日、初めて墨田区の担当者をはじめた会合が開かれました。沿道の人たち約二十名が集まり、この会合では、植物調査及び交通量調査の報告、サクラに関する三二議案、今後の検討課題に関する話し合いがおこなわれました。それによる

初めて墨田区の担当者をまじえた会合を開き、いよいよ設計に向けた議論の段階にはいった

(1) 旧墨堤之道の植物調査結果(沿道の人たちが植えた植物が、モモ、ウメ、サクラなど豊富)に基づき、現在の植物に留意した整備方法の検討が課題になり、次回に植栽案をもとに議論することになりました。

(2) サクラの種類と特性について、墨田区の専門家から説明を受け、これまでのサクラのシンボリックな配置に加え、沿道の列植が今後の検討課題になり、次回、スライド写真により、ソメイヨシノ以外のサクラの形や大きさなどについて話を聞くことになりました。

(3) 七月六日に交通量調査がおこなわれ、歩行者と自転車の交通量が自動車に比べて多いことなどが明らかに



